# なかのなっちょ隊゛通信
## ～支え合いの地域へ～

2018年5月
Vo.2

**なかのなっちょ隊゛（第１層協議体）とは**

**「なっちょだい？」と声をかけあいながら、みんながつながって支え合えるよう、地域が求めているもの、地域に求められているもの、をみんなで考え、見つけ、情報を発信していく場。**

５月８日、第７回なかのなっちょ隊゛が開かれました。

今年度初の話し合いということで、昨年度の振り返りや、支え合いの地域づくりに向けての想い・疑問・不安などを出し合い、話し合うことから始まりました。

なかのなっちょ隊゛では、参加者全員で想いを共有し今後連携し、各々が主体となれるよう取り組んでいくことが重要ですので、今回のような話し合いは有意義な時間であったと感じました。

これまでに無いやり方であり、取り組み方であるので、手探りで進んでいるといった状況ですが、回を重なる毎に参加者同士のつながりが深まり、次第に多くの意見が出てきているように感じました。

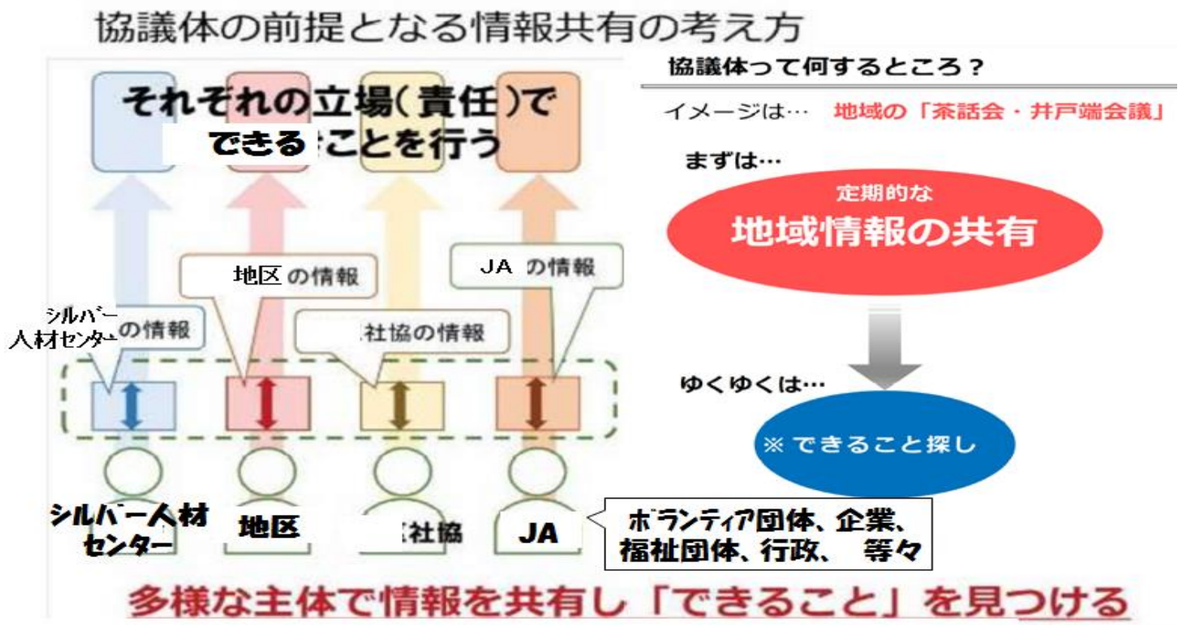
今年度予定されている「地域づくり活動発表・交流会」についても検討され、「どんな人に見てほしいのか、何を伝えたいのか、等の発表会の目的やテーマを考えておかなければ、ただ会を開催するだけで終わってしまい、今後につなげていけないのではないか。」といった意見が出され、次回このことについて意見を出し合えるよう、各団体・地区で話し合ってくることとなりました。

また、なかのなっちょ隊゛について周りに説明する際にその言葉に悩み、うまく伝える事ができないといった意見も多く出され、このことについても次回検討することとなりました。

皆さんになかのなっちょ隊゛をご理解いただけるようなステキな言葉が生まれるよう、また支え合いの地域づくりにつながっていける地域づくり活動発表・交流会となるよう、次回話し合っていきたいと思います。

（※この記事を書いた後第８回で、なかのなっちょ隊゛の説明の言葉をみなさんと考えましたので、上記に書き加えました。）

## 協議体でおこなう「地域情報の共有」




出展：さわやか福祉財団「目指す地域像の実現に向けた地域の基盤づくり～地域におけるそれぞれの役割～」

出展：全国コミュニティライフサポートセンター「生活支援コーディネーター養成テキスト」

# 生活支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ活動日誌

５月に３つの場からお声掛けいただき、なかのなっちょ隊についての説明に伺いました。

１ヶ所めは、豊田地区の「ふるさと虹の会」さんの総会に伺いました。

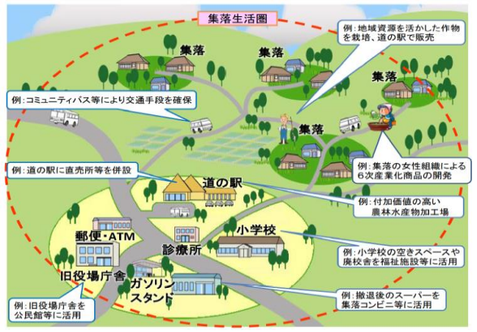
「ふるさと虹の会」さんは『女性議員を育てる会』が原点となり発足し、地域の女性の行政参加を推進し、当時一人の女性議員さんを排出し、その方を中心にこれまで組織されてきたとのことでした。

現在は役員さんが交代され、豊田地区で活躍されている様々な団体に所属されている方々１４名が会員となり、学習会や地元の議員さんとの懇談会、市の行事への参加等の活動の中で、豊田地域が住みよい地域となるよう、意見を交わしそれぞれの活動に活かされているとのことでした。

ふるさと虹の会さんへの説明の場には、豊田地区で取り組みが始まっている「小さな拠点」づくりについても地域振興課より説明がありました。

小さな拠点づくりは昨年度より始まり、「中山間地域等の集落生活圏において、安心して暮らしていく上で必要な生活サービスを受け続けられる環境を持していくために、地域住民が、自治体や事業者、各種団体と協力・役割分担をしながら、各種生活支援機能を集約・確保したり、地域の資源を活用し、しごと・収入を確保する取り組み」を推進しています。

図：「小さな拠点」づくりの取組イメージ




説明後皆さんから、「してもらうことが普通になってしまっている。自分でできることをなにか一つでもやりたい。」「支え合いの気持ちはあるが現実にはまだできていない。」「住み続けられるか不安だがこの土地を捨てて離れることもできない。」「地域とのつながりを大事にしたい。」「話し合うのみでなく思いたったらやってみる。うまくいかなくてもそこで考えればいい。」「50～60 歳代の人達との付き合いが少ない。顔が見えない。」といったお話が聞かれました。

また、豊田地区は少子高齢化が進み、交通・買い物・通院等課題が多く、それらを解決していってほしいという意見も出ました。

なかのなっちょ隊、小さな拠点づくり、ともに取り組みで共通する点が多く、目指す地域像も同じことから、２層協議体の構築等今後連携し、「住み続けられる豊田地区」を住民の皆さんと一緒に考えていければと感じました。

２ヶ所めは、中野地区民生児童委員協議会研修会の場です。

説明後、「地区の中の支え合い活動・地域資源」について、自由に話し合っていただくグループワークをしていただきました。付箋を貼りながら話し合う形に戸惑われる方もいらっしゃいましたが、皆さんから様々な意見が出され、活発なグループワークとなっていました。

多かった意見としては、「サロンの参加者が少ない。男性が来ない。」「近所の人達の様子がわかりにくい。」「各種団体と連携をとりたいが難しい。」といったものでした。

また、「『何でも民生委員』で困ってしまうこともある。」といったご意見も聞かれ、普段の活動での民生委員さんのご負担の多さもうかがえました。

見守りや集いの場などが民生委員さんのみにご負担がいくのではなく、地区全体で担っていけるような地域づくりが必要であり、その為には地区全体でその地域の課題について話し合っていくことから始める必要があるのではないか、と感じました。

３ヶ所めは、竹原地区福祉懇談会の場です。

竹原地区福祉懇談会は、１０年ほど前に災害時支え合いマップの作製（現在は５年に１度見直されているそうです。）をきっかけに開催され、区役員さん、民生委員さん、福祉協力員さん、市議会議員さんが参加されていました。

竹原地区は高齢化率が中野市平均よりも高い地区ですが、「昼間家にいる年寄りは少ないよ。みんな畑行ってるよ。」「災害時支え合いマップが無くても、ほぼ区内の人間はわかるよ。」といったお話が聞かれました。

また、老人クラブ（長寿会）ではマレットが盛んな一方、８０歳代の方が多く新規会員の加入が少ないといった事や、サロンの参加者が少ない地域がある、といった課題もお聞きしました。

他地区と共通する課題もありますが、他地区が課題とする点は竹原地区では課題となっておらず、地域づくりではその地区毎の課題を見つけていき、地区全体で話し合い考えていくことが重要であるのだと感じました。

３ヶ所とも説明の後に「全体像が見えづらい。」「一度聞いただけでは理解しづらい。」「結局何をやってくれるのか。」といった意見が聞かれ、なかのなっちょ隊゛について説明させていただくことの難しさを感じました。今後も少しずつ「支え合いの地域づくり」について、繰り返しお伝えしながら地域をまわらせていただければと思っております。

**ちょっとした困り事を手助けしてくれるようなボランティアさん、地区の方が気軽に集まれるような場、高齢者に優しいお店やサービス、地域の中で活躍されている方、等の「地域のお宝」情報を教えてください☆**

**安心して年齢を重ねられるよう、地区全体で「支え合い」や「あったらいいな」と思うものを、考えてみませんか？**

【メモ】生活支援コーディネーターとは…
支え合いの地域づくりに向けて、
①地域の中で支え合い活動が生まれるよう、広がるよう、人・場・活動・情報、などをつなぎます。
②地域の支え合い活動（『地域のお宝』）を、目に見えるように・活用できるように・役割がわかるように、発信します。


中野市高齢者支援課
生活支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ：小島杏子
電話：22-2111（内線 366）